

令和8年度 教科目概要
(1年生)

吉川福祉専門学校
介護福祉科



令和 8 年度 教科目概要をスマートフォンなどで見ることができます。
必要に応じてスマートフォン本体に保存して活用ください。

【1年生】介護福祉科 令和8年度 教育課程・目次

領域	教育内容	科 目	区 分	単位数	時間数	授業時間数		目次
						一年次	二年次	
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	講義	2	30	30		1
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	2	30	30		2
		人間関係とコミュニケーションⅡ	演習	2	30		30	
		チームマネジメント	講義	2	30		30	
	社会の理解	社会の理解Ⅰ-①	講義	2	30	30		3
		社会の理解Ⅰ-②	講義	2	30	30		4
		社会の理解Ⅱ	講義	2	30		30	
	人間と社会に関する選択科目	他者理解と日常生活の基本	講義	2	30	30		5
小 計			16	240	150	90		
介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ-①	講義	2	30	30		6
		介護の基本Ⅰ-②	講義	2	30	30		7
		介護の基本Ⅱ-①	講義	2	30	30		8
		介護の基本Ⅱ-②	講義	2	30	30		9
		介護の基本Ⅲ	講義	2	30		30	
		介護の基本Ⅳ	講義	2	30		30	
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	2	30	30		10
		コミュニケーション技術Ⅱ	演習	2	30	30		11
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	演習	4	60	60		12
		生活支援技術Ⅱ	演習	4	60	60		13
		生活支援技術Ⅲ	演習	4	60		60	
		生活支援技術Ⅳ	演習	2	30		30	
		生活支援技術Ⅴ	演習	2	30		30	
		生活支援技術Ⅵ	演習	2	30		30	
		生活支援技術Ⅶ	演習	2	30		30	
	介護過程	介護過程Ⅰ-①	演習	2	30	30		14
		介護過程Ⅰ-②	演習	4	60	60		15
		介護過程Ⅱ	演習	4	60		60	
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ-①	演習	2	30	30		16
		介護総合演習Ⅰ-②	演習	2	30	30		17
		介護総合演習Ⅱ	演習	2	30		30	
		介護総合演習Ⅲ	演習	2	30		30	
	介護実習	介護実習Ⅰ-①	実習	3	120	120		18
		介護実習Ⅰ-②	実習	4	160	160		19
		介護実習Ⅱ	実習	5	200		200	
小 計			66	1,290	730	560		
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ-①	講義	2	30	30		20
		こころとからだのしくみⅠ-②	講義	2	30	30		21
		こころとからだのしくみⅡ	講義	2	30		30	
		こころとからだのしくみⅢ	講義	2	30		30	
	発達と老化の理解	発達と老化の理解Ⅰ	演習	2	30	30		22
		発達と老化の理解Ⅱ	演習	2	30	30		23
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	演習	2	30	30		24
		認知症の理解Ⅱ	演習	2	30	30		25
	障害の理解	障害の理解Ⅰ	講義	2	30		30	
		障害の理解Ⅱ	講義	2	30		30	
小 計			20	300	180	120		
医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	4	68	68		26、27
		医療的ケアⅡ	演習	4	60		60	
	小 計			8	128	68	60	
卒業に必要な総単位数及び総授業時数（合 計）				110	1,958	1,128	830	
						1,958		

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	人間の尊厳と自立	講義	2	1 年 前期		水間光昭
			30			
≪授業のねらい≫厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 人間の尊厳を福祉のもつ意義から考える。具体的には生活場面の事例から高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立について、介護現場で起こる事例を通して基本となる考え方を学ぶ。個々人の権利としての人権を理解し利用者の権利侵害の背景や権利擁護、自立のあり方について考える。						
≪達成目標≫ ①生活場面から自立に関する基本的な考え方を学び、基本的ニーズと生活支援の関連を理解する。 ②人権思想がどのような経緯で誕生したかを理解し、歴史的変遷から権利擁護の考え方を理解する。 ③介護場面において、尊厳の保持と自立支援がどのように行われているか理解する。						
回数	授業計画					備考
1	「人間の尊厳と自立」の授業のねらいと概要を説明。利用者主体について考える（動画視聴）					
2	「介護福祉士と倫理（基盤）」介護の専門性や介護の定義を、グループワークを通して知る					
3	「日本社会・国際社会の歴史から尊厳・自立を学ぶ」					
4	「日本国憲法から人権・保障等を学ぶ」					
5	「事例から尊厳と自立を考える」					小テスト
6	「社会福祉制度の歴史を学ぶ」					
7	「日本の福祉と人権を総合的に学ぶ」					
8	「尊厳や自立に影響を与えた、人物を知る」					
9	「動画視聴から自立支援を考える」					課題
10	「パーソナルエリアを意識した支援を考える」					小テスト・動き易い服装
11	「ICFから尊厳・自立を考える」					
12	「権利擁護について学ぶ」					
13	「実際の介護現場における尊厳・自立を知る」					課題
14	定期試験 学習した内容の振り返り					
15	定期試験の解答説明 前期に学習した内容のまとめ					人間の尊厳と自立を振り返る
使用テキスト	介護福祉士養成講座1「人間の理解」中央法規出版					
評価	定期試験	課題	小テスト			
	70%	20%	10%			
学生へのメッセージ	人間の尊厳とは何か？介護福祉士としての倫理観を身につけましょう。そこから自立支援としての介護を展開していきましょう。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	人間関係と コミュニケーションⅠ	講義	2	1年 前期		藤沼洋匡
			30			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を理解する。 ②介護現場における倫理的課題についてコミュニケーションで対応できるための基礎を身につける。 ③多職種協働や信頼関係の下、コミュニケーションが取れるようにする。						
回数	授業計画					備考
1	「人間関係とコミュニケーション」の授業のねらいと概要の説明					
2	「人間と人間関係」 2. 自分と他者の理解 3. 発達心理学からみた人間関係					
3	〃 4. 社会心理学からみた人間関係					
4	〃 5. 人間関係とストレス					小テスト
5	「対人関係におけるコミュニケーション」 1・2					
6	「対人関係におけるコミュニケーション」 3					小テスト
7	「対人援助関係とコミュニケーション」 1					
8	「対人援助関係とコミュニケーション」 2・3					
9	「対人援助関係とコミュニケーション」 3					小テスト
10	「対人援助関係とコミュニケーション」 演習 傾聴について考える					
11	「組織におけるコミュニケーション」 1・2					
12	「 〃 」 3					
13	「 〃 」演習 ブレーンストーミングをやってみる					課題
14	定期試験					
15	定期試験解説					
使用テキスト	介護福祉士養成講座1「人間の理解」中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト	演習課題			
	60%	30%	10%			
学生への メッセージ	自分を知ることからコミュニケーションを始めましょう。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	社会の理解Ⅰ－①	講義	2	1年 前期	○	池上千恵美
			30			
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。						
≪達成目標≫ ①個人・家族・地域・社会のしくみと、地域社会における自助・互助・共助・公助を理解する。 ②地域共生社会や地域包括ケアの理念、その実現のための制度・施策を理解する。 ③社会保障の基本的な考え方、社会保障制度のしくみ、社会保障制度の現状と課題を理解する。						
回数	授業計画					備考
1	授業説明 社会とはなにか 社会の理解を学ぶ理由 社会と生活のしくみ					
2	社会と生活のしくみ ライフスタイルの変化 家族の機能と役割					
3	社会と生活のしくみ 社会・組織の機能と役割 地域・地域社会 地域社会における生活支援					
4	地域共生社会の実現に向けた制度や施策 地域福祉の発展 地域共生社会					小テスト
5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策 地域包括ケア					課題
6	社会保障制度 社会保障の基本的な考え方					
7	社会保障制度 日本の社会保障制度の発達					
8	社会保障制度 日本の社会保障制度の発達					小テスト
9	社会保障制度 日本の社会保障制度のしくみ					
10	社会保障制度 日本の社会保障制度のしくみ					
11	社会保障制度 日本の社会保障制度のしくみ					
12	社会保障制度 日本の社会保障制度のしくみ					小テスト
13	社会保障制度 日本の社会保障制度のしくみ					
14	前期試験					
15	前期試験解説 社会保障制度 現代社会と社会保障制度					
使用テキスト		介護福祉士養成講座2 「社会の理解」中央法規出版				
評価	定期試験	小テスト	課題提出			
	70%	20%	10%			
学生へのメッセージ	日頃から新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、自分の生活に結びつけると社会の動きが理解できます。					
実務経験と科目との関連	介護福祉士としての実務経験と社会福祉士の知識を生かして、介護実践に必要な地域共生社会、地域包括ケア、社会保障制度の基礎的な知識が理解できる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	社会の理解Ⅰ－②	講義	2	1年 後期	○	池上千恵美
			30			
≪授業のねらい≫厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。						
≪達成目標≫ ① 介護保険制度の目的としくみを理解する。 ② 障害者総合支援制度の目的としくみを理解する。						
回数	授業計画					備考
1	授業説明 高齢者保健福祉と介護保険制度 高齢者保健福祉の動向					
2	高齢者保健福祉に関連する法律					
3	介護保険制度 介護保険制度創設の背景と目的					
4	介護保険制度 介護保険制度のしくみの基本的理解					小テスト
5	介護保険制度 介護保険制度のしくみの基本的理解					
6	介護保険制度 介護保険制度のしくみの基本的理解					課題
7	介護保険制度 介護保険制度における組織、団体、介護支援専門員の役割					
8	介護保険制度 介護保険制度の動向					小テスト
9	障害者保健福祉と障害者総合支援制度 障害者保健福祉の動向					
10	障害者保健福祉に関する法律					
11	障害者総合支援制度					
12	障害者総合支援制度					小テスト
13	障害者総合支援制度					
14	後期試験					
15	後期試験解説 障害者総合支援制度					
使用テキスト		介護福祉士養成講座2 「社会の理解」中央法規出版				
評価	定期試験	小テスト	課題提出			
	70%	20%	10%			
学生への メッセージ	日頃から新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、自分の生活に結びつけると社会の動きが理解できます					
実務経験と 科目との関連	介護福祉士としての実務経験と社会福祉士の知識を生かして、介護実践に必要な介護保険制度、障害者総合支援制度の基礎的知識が理解できる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	他者理解と日常生活の基本	講義	2	1 年 後期		久田晴實
			30			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重しながら共生する社会へ理解や、国際的な視野を養う学習とする。						
《達成目標》 ①様々な人々と相互に尊重しあいながら人間関係を作る考え方、スキルやツールを学ぶ。 ②他者理解と日常生活の基本を実際に演習やロールプレイングで体験し学び、身に着ける。 ③コミュニケーションの基本である手紙をはがき（絵手紙）と封書で実作し発送し学ぶ。 ④グループで季節の行事イベントや遊びりテーションを協力して作成する。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明 他者理解①「挨拶の基本 初対面のあいさつ」軽体操Ⅰ					ファイル（授業開始時に配布）必ず持参すること。 小テスト 実施の際は範囲を事前に予告します。 しっかり準備してください。
2	他者理解②「挨拶の基本、立ち方と礼、上座と下座」軽体操Ⅱ 小テスト①					
3	他者理解③「はがきの礼状作成1」短歌Ⅰ（介護百人一首等） 小テスト②					
4	他者理解④「はがきの礼状作成2」短歌Ⅱ（介護百人一首等） 小テスト③					
5	他者理解⑤「封書礼状作成」絵手紙Ⅰ 小テスト④					
6	他者理解⑥「封書礼状作成」絵手紙Ⅱ 小テスト⑤					
7	人間関係作り② 遊びりテーションⅠ 軽体操Ⅲ					
8	人間関係作り③ 遊びりテーションⅡ 軽体操Ⅳ					
9	行事作り① ハロウィンを楽しくⅠ					
10	行事作り② ハロウィンを楽しくⅡ					
11	行事作り③ お正月を楽しくⅠ					
12	行事作り③ お正月を楽しくⅡ 短歌Ⅲ（介護百人一首等）					
13	わかりやすい記録について					
14	定期試験					
15	業の振り返り 重要事項の再確認 短歌④（介護百人一首・校内歌会）					
使用テキスト	使用教科書はありません。授業配布のプリントを使います。必ずファイルしておいてください。					
評価	定期試験	レポート 課題提出	小テスト	班活動状況 （授業内で説明）		
	60%	10%	20%	10%		
学生への メッセージ	実施した小テストの一部は定期試験でも出題します。重要語句はしっかりと覚えましょう。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護の基本Ⅰ-①	講義	2	1年 前期	○	池上千恵美
			30			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。						
《達成目標》 1. 「老人福祉法」が成立した背景を理解して、制定後の介護に関する施策を説明できる。 2. 介護福祉の理念である尊厳を支える介護、自立を支える介護、利用者主体について説明できる。 3. 介護福祉士の活動の場と役割、「社会福祉士及び介護福祉士法」について、理解し説明できる。						
回数	授業計画					備考
1	授業説明 介護、介護福祉、介護福祉士とはなにか。					
2	介護福祉を取り巻く状況					
3	介護福祉を取り巻く状況					
4	介護福祉の歴史 老人福祉法制定にいたるまでの社会福祉政策					小テスト
5	介護福祉の歴史 1970年代から1980年までの社会福祉政策					
6	介護福祉の歴史 1990年代の社会福祉政策					課題
7	介護福祉の歴史 2000年以降の社会福祉政策					
8	介護福祉の基本理念					小テスト
9	介護福祉の基本理念					
10	社会福祉士法及び介護福祉士法					
11	介護福祉士の活動の場と役割					
12	介護福祉士に求められる役割とその養成					小テスト
13	介護福祉士を支える団体					
14	前期定期試験					
15	前期定期試験振り返り					
使用テキスト	介護福祉士養成講座3 「介護の基本Ⅰ」 中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト	課題提出			
	70%	20%	10%			
学生への メッセージ	仕事遂行能力を専門性といいます。専門性の要素は倫理・知識・技術です。介護福祉士には要介護者に対して、人はだれでもかけがえのない存在であるからひとりの人として尊重するという倫理が求められます。介護の倫理を一緒に学びましょう。					
実務経験と 科目との関連	介護福祉士資格を有する者として、実務経験の観点から指導する。					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護の基本Ⅰ-②	講義	2	1年 後期	○	池上千恵美
			30			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。						
《達成目標》 1. 職業倫理と倫理判断を学び、様々な介護の場面でどういさせるかを考える。 2. 日本介護福祉士会倫理綱領や行動規範を基に、介護福祉士の専門性を理解できる。 3. ICFの生活機能と各因子の相互関連性を理解できる。 4. 自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解できる。						
回数	授業計画					備考
1	授業説明 介護実践における倫理 職業倫理					
2	介護実践における倫理 介護の倫理の実践と尊厳ある介護実践					
3	介護実践における倫理 高齢者虐待と生命倫理（介護の倫理）					
4	介護実践における倫理 倫理的対応が必要な事例					小テスト
5	介護実践における倫理 日本介護福祉士会の倫理綱領 行動規範					
6	自立に向けた介護 介護福祉における自立支援					
7	自立に向けた介護 介護福祉における自立支援					
8	自立に向けた介護 ICFの考え方					小テスト
9	自立に向けた介護 自立支援とリハビリテーション					
10	自立に向けた介護 自立支援とリハビリテーション					
11	自立に向けた介護 自立支援と介護予防					
12	自立に向けた介護 自立支援と介護予防					小テスト
13	自立に向けた介護 自立支援と介護予防					課題
14	前期定期試験					
15	前期定期試験振り返り					
使用テキスト	介護福祉士養成講座3 「介護の基本Ⅰ」 中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト	課題提出			
	70%	20%	10%			
学生への メッセージ	仕事遂行能力を専門性といいます。専門性の要素は倫理・知識・技術です。介護福祉士には要介護者に対して、人はだれでもかけがえのない存在であるからひとりの人として尊重するという倫理が求められます。介護の倫理を一緒に学びましょう。					
実務経験と 科目との関連	介護福祉士資格を有する者として、実務経験の観点から指導する。					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護の基本Ⅱ－①	講義	2	1 年 前期		佐藤真基子
			30			
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。						
≪達成目標≫ ①介護を必要としている人について理解し、生活能力や意欲を引き出すことの必要性、自立に向けた支援について理解ができる。 ②介護を必要とする人及び家族のさまざまな生活上の課題を理解することができる。 ③生活上の課題のために必要なサービスや地域の社会資源を理解し、説明することができる。 ④多職種の役割を理解することができる。 ⑤介護における安全の確保が理解することができる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明/私たちの生活の理解					
2	介護福祉を必要とする人たちの暮らし/その人らしさと生活ニーズ					
3	生活のしづらさの理解とその支援					小テスト①
4	利用者の生活を支えるしくみ					小テスト②
5	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは①					小テスト③
6	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは②					小テスト④
7	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは③					小テスト⑤
8	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは④					小テスト⑥
9	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）とは					小テスト⑦
10	地域連携					小テスト⑧
11	介護における安全の確保の確保					小テスト⑨
12	リスクマネジメントとは何か①					小テスト⑩
13	リスクマネジメントとは何か②					レポート課題
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト		介護福祉士養成講座4 「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版				
評価	定期試験	レポート課題 提出	小テスト			
	60%	20%	20%			
学生への メッセージ	「介護の基本Ⅱ－①」は、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を習得する科目です。しっかりと予習・復習をし、理解を深めていきましょう。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護の基本Ⅱ－②	講義	2	1 年 後期		佐藤真基子
			30			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより□ 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。						
《達成目標》 ①多職種連携・地域連携の意味と必要性、その実際について理解ができる。 ②多職種の役割を理解し、説明することができる。 ③介護における安全性の確保とリスクマネジメントの必要性を理解することができる。 ④介護従事者の安全について知ることができる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明/多職種連携・協働の必要性①					
2	多職種協働・連携の必要性②					
3	多職種連携・協働に求められる基本的な能力①					小テスト①
4	多職種連携・協働に求められる基本的な能力②					小テスト②
5	多職種連携・協働に求められる基本的な能力③					小テスト③
6	保険・医療・福祉職の役割と機能①					小テスト④
7	保険・医療・福祉職の役割と機能②					小テスト⑤
8	介護従事者の安全①					小テスト⑥
9	介護従事者の安全②					小テスト⑦
10	介護従事者の安全③					小テスト⑧
11	介護従事者の安全④					小テスト⑨
12	介護従事者の安全⑤					小テスト⑩
13	介護従事者の安全⑥					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り、労働環境の整備					レポート課題
使用テキスト	介護福祉士養成講座4 「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版					
評価	定期試験	レポート課題 提出	小テスト			
	60%	20%	20%			
学生への メッセージ	「介護の基本Ⅱ－②」は、多職種協働の必要性の歴史背景を理解し、介護従事者の心や体の健康管理及び実践方法を習得する科目です。 しっかりと予習・復習をし、理解を深めていきましょう。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	コミュニケーション技術Ⅰ	講義	2	1年 前期		渡邊尚太
			30			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、 介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。						
《達成目標》 ①介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに 利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。 ②介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、自分の言葉で説明できる。 ③さまざまなコミュニケーション技法、話を聞く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法など）につい て理解する。						
回数	授業計画					備考
1	授業のねらいと概要 導入・コミュニケーションを学習する目的					P2～
2	コミュニケーションの果たす役割					P6～
3	介護福祉職の職務とコミュニケーション、援助関係の特徴					P11～
4	援助関係を構築する原則					P22～
5	介護における援助関係を意識したコミュニケーション					P28～
6	コミュニケーションにおける基本態度、「言語」「非言語」「周辺言語」					P35～
7	「言語」「非言語」「周辺言語」、目的別のコミュニケーション					P43～
8	目的別のコミュニケーション、動機づけ					P52～
9	内発的動機付け、外発的動機付け					
10	動機づけグループワーク					
11	リフレーミンググループワーク					P59～
12	意思決定を支援する為のコミュニケーション					P59～
13	集団におけるコミュニケーション技術					P59～
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り「回想法」					
使用テキスト	介護福祉士養成講座5 「コミュニケーション技術」 中央法規出版					
評価	定期試験	レポート (授業内で説明)				
	90%	10%				
学生への メッセージ	①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について ②さまざまなコミュニケーション技法話を聞く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す 技法等について、介護を必要とする利用者やその家族への理解を深めて、信頼関係を築くテク ニックの学習をしましょう。信頼の基本はコミュニケーション技術です。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	コミュニケーション技術Ⅱ	講義	2	1年 後期		渡邊尚太
			30			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を 学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。						
《達成目標》 ①介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者とその 家族あるいは多職種協働でのコミュニケーション能力を身につける。 ②介護を必要とする利用者のそれぞれの状態を理解し、それに応じたコミュニケーション技法を習得する。 ③利用者・家族との関係づくりについて理解する。						
回数	授業計画					備考
1	導入・コミュニケーション障害とは					P70～78
2	コミュニケーション障害について、視覚障害について					P79～91
3	聴覚障害について、構音障害について					P92～105
4	失語症について					P106～116
5	認知症について					P117～126
6	認知症について、うつ病について					P127～133
7	バリデーション・ユマニチュード					P134～141
8	統合失調症について					P142～154
9	学習障害、高次脳機能障害について					P155～183
10	高次脳機能障害について、重症心身障害について					P186～200
11	家族とのコミュニケーション・家族ストレスについて					P201～228
12	チームのコミュニケーション					P229～242
13	「報告」「連絡」「相談」「記録」					P243～255
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り「会議」「事例検討」					
使用テキスト	介護福祉士養成講座5 「コミュニケーション技術」 中央法規出版					
評価	定期試験	レポート (授業内で説明)				
	90%	10%				
学生への メッセージ	①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について ②さまざまなコミュニケーション技法話を聞く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す 技法等について、介護を必要とする利用者やその家族への理解を深めて、信頼関係を築くテク ニックの学習をしましょう。信頼の基本はコミュニケーション技術です。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅰ	演習	4	1年 前期	○	鯉沼聡美
			60			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①生活支援の理解ができる。 ②対象者の能力を活用・発揮して自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄における生活支援の基礎的な知識と技術を習得できる。 ③健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解することができる。 ④ベットメイキングが1人でできる。						
回数	授業計画					備考
1/2	授業概要説明 生活支援の理解 根拠に基づく生活支援					
3/4	自立に向けた休息と睡眠の介護 ベットメイキング ①					
5/6	自立に向けた休息と睡眠の介護 ベットメイキング ②					
7/8	自立に向けた移動の介護 立ち上がり時、体位、体位変換					
9/10	自立に向けた身じたくの介護 衣服着脱、 浅座り①					(持)前開きの服
11/12	実技試験 (1限、2限)					ベッドメイキング
13/14	自立に向けた身じたくの介護 意義と目的 ドライヤー					(持)くるぶし以上の靴下
15/16	自立に向けた身じたくの介護 衣服着脱、 浅座り②					(持)前開きの服
17/18	自立に向けた移動の介護 立ち上がり時、体位、体位変換					
19/20	自立に向けた食事の介護 意義と目的 食事、とろみ体験					(持)飲み物
21/22	自立に向けた食事の介護 意義と目的 食事、とろみ体験					(持) おかず1品
23/24	自立に向けた入浴 介助方法 (片麻痺のあるかたの着脱)					(持)前開きの服、ズボン
25/26	自立に向けた排泄の介護 意義と目的 パット体験					
27/28	自立に向けた排泄の介護 意義と目的 おむつ交換体験					
29/30	前期授業の振り返り 実習前の確認					
使用テキスト		介護福祉士養成講座6・7 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規出版				
評価	レポート課題 提出	実技試験				
	20%	80%				
学生への メッセージ	実技試験は、授業内に提示する。 ベットメイキングの実技試験が不合格者は再試験となる。 レポート提出は実技の内容をまとめ次の授業開始前に回収します。					
実務経験と 科目との関連	特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅱ	演習	4	1 年 後期	○	鯉沼聡美
			60			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①生活支援の理解ができる。 ②対象者の能力を活用・発揮して自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄における生活支援の基礎的な知識と技術を習得できる。 ③健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解することができる。 ④ベットメイキングがひとりでできる。						
回数	授業計画					備考
1/2	休息睡眠の介護、ベッド上に臥床している時のシーツ交換					
3/4	自立に向けた身じたくの介護 片麻痺の衣服着脱					
5/6	自立に向けた移動の介護 臥床時の起き上がり					
7/8	自立に向けた入浴の介護 意義と目的 / 手浴・足浴					洗身、洗髪の流れ (持) フェイスタオル
9/10	女性機械浴 / 男性機械浴					※国家試験問題
11/12	部分清拭 / 全身清拭 / 臥床時の衣服着脱					
13/14	自立に向けた身じたくの介護 / 臥床時の衣服着脱					
15/16	自立に向けた移動の介護 杖の使い方/車椅子の使い方					坂道、段差
17/18	自立に向けた移動の介護 ベッドから車いす/体位交換					スライディングシート使用
19/20	自立に向けた排泄の意義と目的 おむつ交換、体位交換①					
21/22	自立に向けた食事の介護 誤嚥、窒息防止 食事介助					(持) 大スプーン1本、小スプーン
23/24	自立に向けた排泄の意義と目的 おむつ交換、体位交換②					
25/26	実技試験					
27/28	国家試験問題（生活支援技術）の解き方					
29/30	振り返り 実習前の確認					
使用テキスト	介護福祉士養成講座6・7 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規出版					
評価	定期試験	演習の記録	実技試験			
	なし	50%	50%			
補足評価	・演習の記録は、次の演習日の前日9時までに提出厳守 ・演習の記録は他者が見て、何をすればよいかわかる内容で記載して採点とする。 不足部分は再提出となり減点となる。 ・実技試験は、5点×10項目のうち35点未満は再試験となる。					
実務経験と科目との関連	特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護過程Ⅰ－①	講義	2	1年 前期	○	池上千恵美
			30			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 本人の望む生活に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。						
《達成目標》 1. 介護過程の意義と目的を理解できる。 2. 介護過程の展開を理解できる。 3. 事例を用いた介護過程展開方法の基礎が理解できる。						
回数	授業計画					備考
1	授業説明 介護過程とは何か。					
2	介護過程を理解する準備 他者とかかわることを考える。					課題
3	介護過程を理解する準備 相手の立場になって考える。共感的理解 利用者の願いや思いに気づく					
4	介護過程の理解 介護過程の意義 目的					課題
5	介護過程の理解 介護過程の全体像					
6	介護過程の展開 アセスメント（情報収集）とICF					小テスト
7	介護過程の展開 アセスメント（情報収集）					
8	介護過程の展開 アセスメント（情報収集）					
9	介護過程の展開 アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化）					小テスト
10	介護過程の展開 アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化）					
11	介護過程の展開 アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化）					
12	介護過程の展開 アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化）					小テスト
13	介護過程の展開 アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化）生活課題優先順位					
14	前期試験					
15	前期試験解説					
使用テキスト	介護福祉士養成講座9 「介護過程」 中央法規出版					
評価	定期試験	介護過程の展開	小テスト	課題提出		
	50%	30%	10%	10%		
学生へのメッセージ	介護過程は課題解決思考を用いるので、自分の考えをまとめ記録する。 「介護過程の展開」の評価については授業内で説明します。					
実務経験と科目との関連	介護福祉士としての実務経験を生かし、介護過程の意義と目的、介護過程展開の基礎が理解できる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護過程Ⅰ－②	講義	4	1年 後期	○	池上千恵美
			60			
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 本人の望む生活に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。						
≪達成目標≫ 1. 既習した知識・技術を統合し、多面的にアセスメントできる。 2. 利用者にとって適切な個別援助計画を立案できる。						
回数	授業計画					備考
1/2	授業説明 介護を必要とする人の理解					2回目小テスト
3/4	介護を必要とする人の理解 介護過程の展開 アセスメント生活課題の明確化					3回目課題
5/6	介護過程の展開 アセスメント 生活課題の明確化 生活課題優先順位					
7/8	介護過程の展開 個別援助計画の意義・目的 計画立案 目標 支援内容・支援方法					
9/10	介護過程の展開 事例1の個別援助計画を立案する。					9回目小テスト
11/12	介護過程の展開 事例1の個別援助計画を立案する。					
13/14	介護過程の展開 事例1の個別援助計画を立案する。					
15/16	介護過程の展開 事例1の個別援助計画を立案する。					
17/18	介護過程の展開 事例1の個別援助計画を立案する。					
19/20	介護過程の展開 事例2の個別援助計画を立案する。					20回目小テスト
21/22	介護過程の展開 事例2の個別援助計画を立案する。					
23/24	介護過程の展開 事例2の個別援助計画を立案する。					
25/26	介護過程の展開 事例2の個別援助計画を立案する。					
27/28	後期試験 介護過程の展開 事例2の個別援助計画を立案する。					
29/30	介護過程の展開 事例2の個別援助計画を立案する。 まとめ					
使用テキスト	介護福祉士養成講座9 「介護過程」 中央法規出					
評価	定期試験	介護過程の展開	小テスト	課題提出		
	40%	40%	10%	10%		
学生への メッセージ	介護過程は課題解決思考を用いるので、自分の考えをまとめて記録する。 「介護過程の展開」の評価については授業内で説明します。					
実務経験と 科目との関連	介護福祉士としての実務経験を生かし、介護過程の意義と目的、介護過程展開の基礎が理解できる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護総合演習Ⅰ－①	演習	2	1 年 前期	○	鯉沼聡美
			30			
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護実践に必要な知識と統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。						
≪達成目標≫ ①介護実習Ⅰ－①の実習学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成させる。 ②毎日の目標、記録類を具体的に書くことができる。 ③実習の振り返りを自分の言葉でまとめることができる。 ④介護を必要とする方への様々な場面に必要とさせている介護の基本的な知識・技術を習得する。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明 介護総合演習の位置づけ、意義と目的					p 2～
2	介護実習の流れ 介護実習施設の利用者理解と学び					
3	介護実習施設の理解 (特別養護老人ホーム、老人保健施設)					
4	障害者支援施設、通所介護、通所リハビリテーション					
5	利用者の理解 (利用者がわかる自己紹介を考える)					
6	利用者の理解 (利用者がわかる自己紹介を考える)					
7	利用者の理解 まとめ					【発表】
8	介護実習Ⅰ－①の事前準備 目的と目標、学習個人票作成					※実習施設発表 (持)個人票写真 2 枚
9	介護実習Ⅰ－①の事前準備 実習施設概要の作成、書類準備					授業内に提出
10	介護実習Ⅰ－①の事前準備 事前訪問の目的・方法					※お礼状の書き方、 電話のかけ方
11	介護実習Ⅰ－①の事前準備 実習記録の意義と目的・作成					
12	介護実習記録作成					授業内に提出 ※細菌検査の説明
13	介護実習記録作成					授業内に提出
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り 事後指導について					
使用テキスト	介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版					
評価	定期試験	実習での学び発表	実習書類・記録・ 提出物			
	40%	30%	30%			
学生への メッセージ	介護実習は1・2年とあります。各自健康管理し、自分が行く実習先の特徴など事前に調べましょう。持ち物や提出期限は守り、実習前に身だしなみの確認をします。					
実務経験と 科目との関連	特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。介護教員講習会取得					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護総合演習Ⅰ－②	演習	2	1年 後期	○	鯉沼聡美
			30			
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護実践に必要な知識と統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。						
≪達成目標≫ ①介護実習Ⅰ－②の事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成させる。 ②毎日の目標、記録類を具体的に書くことができる。 ③実習の振り返りを自分の言葉でまとめ発表することができる。 ④介護を必要とする方への様々な場面に必要とさせている介護の基本的な知識・技術を習得する。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明 介護実習Ⅰ－①の振り返り					p2～
2	介護実習Ⅰ－①の報告書作成					
3	介護実習Ⅰ－①の報告書作成					
4	介護実習Ⅰ－① 報告会					【発表】
5						
6						
7	介護実習Ⅰ－②の事前準備 介護実習Ⅰ－②の目的・方法					(持)個人票の写真 2枚
8	介護実習Ⅰ－②の事前準備 目的と目標、学習個人票作成					※実習施設発表 個人票提出
9	介護実習Ⅰ－②の事前準備 実習施設概要の作成・書類準備					授業内に施設個人票 提出(清書)
10	介護実習Ⅰ－②の事前準備 施設の理解 施設概要作成					授業内に施設概要 提出
11	介護実習Ⅰ－①の事前準備 実習記録の意義と目的・作成					
12	介護実習記録作成					授業内に提出 ※細菌検査の説明
13	介護実習記録作成 日々の自習目標 振り返り					授業内に提出
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り 事後指導について					
使用テキスト	介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版					
評価	定期試験	実習での学びの 発表	実習書類・記録・ 提出物			
	40%	30%	30%			
学生への メッセージ	介護実習は1・2年とあります。各自健康管理し、自分が行く実習先の特徴など事前に調べましょう。持ち物や提出期限は守り、実習前に身だしなみの確認をします。					
実務経験と 科目との関連	介護福祉士の資格を取得後、特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。 介護教員講習会取得					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護実習Ⅰ－①	実習	3	1年 前期	○	鯉沼聡美 池上千恵美
			120			
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で介護過程を実践する能力を養う学習とする。						
≪達成目標≫ 1. 介護サービスを利用している人たちがどのようなところで、どのような暮らしをしているのか理解する。 2. どのような専門職が利用者を支えているのかを理解する。						
回数	授業計画					
1	介護実習Ⅰ－①は次の目標をもち、実習形式で1年生前期に15日間（居宅サービス実習3日間と施設実習12日間）を行う。 1. 利用者の暮らしの場が理解できる。 2. 介護サービスの利用者と出会うことができる。 ①利用者の個別性を理解する。 ②利用者の存在を正しく理解する。 3. 生活支援の場を知ることができる。 ①日常生活における基本的な生活支援技術を学ぶ。 ②多職種協働・連携を理解する。 4. コミュニケーションの大切さを知ることができる。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版					
評価	施設指導者評価	学校指導教員評価	学生自己評価、実習記録、出席状況、カンファレンス参加状況などにより総合評価する。			
	70%	30%				
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む					
実務経験と科目との関連	介護福祉士の実務経験を有する者として、実務経験の観点から指導する。					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護実習Ⅰ－②	実習	4	1年 後期	○	鯉沼聡美 池上千恵美
			160			
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより						
1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。						
2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で介護過程を実践する能力を養う学習とする。						
≪達成目標≫						
1. それぞれの暮らしの場で個々の利用者の心身の状況に応じた基本的な生活支援技術の実践ができる。						
2. 個別援助計画を立案できる。						
回数	授業計画					
1	介護実習Ⅰ－②は次の目標をもち、実習形式で1年生後期に20日間行う。 1. 利用者の状態像（高齢者・障害者・認知症のある人）を観察することができる。 2. 利用者の生活の課題を理解することができる。 3. 安全性と快適性に配慮した基本的な生活支援技術を実践することができる。 4. 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。 5. 個別援助計画を立案できる。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
使用テキスト	介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版					
評価	施設指導者評価	学校指導教員評価	学生自己評価、実習記録、出席状況、カンファレンス参加状況などにより総合評価する。			
	90%	10%				
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。					
実務経験と科目との関連	介護福祉士の実務経験を有する者として、実務経験の観点から指導する。					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ I-①	講義	2 30	1年 前期		藤沼洋匡
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。						
≪達成目標≫ ①健康の概念を理解することができる。 ②身体の構造と機能について理解することができる。 ③こころ（心理、精神）のしくみを理解することができる。 ④終末期や死について理解し、他職種との連携、介護および家族ケアを考えることができる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明・シラバスや授業運営について 自己紹介					
2	「健康」とは何か					
3	こころのしくみを理解する① 人間の欲求とは					小テスト (確認プリント)
4	〃 ② 自己実現と尊厳					小テスト (確認プリント)
5	〃 ③ こころのしくみの基礎 1・2					小テスト (確認プリント)
6	〃 ④ 〃 3・4					小テスト (確認プリント)
7	〃 ⑤ 〃 5・6・7					小テスト (確認プリント)
8	からだのしくみを理解する ① ②					小テスト (確認プリント)
9	〃 ③ (1) 細胞 (2) 遺伝					小テスト (確認プリント)
10	〃 ③ (3) 脳・神経					小テスト (確認プリント)
11	〃 ③ (4) 感覚器					小テスト (確認プリント)
12	〃 ③ (5) 呼吸器					小テスト (確認プリント)
13	〃 からだのしくみ (1) ～ (5) 確認					
14	定期試験					
15	定期試験解説					
使用テキスト	介護福祉士養成講座11 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版					
評価	定期試験	確認テスト				
	80%	20%				
学生へのメッセージ	学習内容は暗記が多く、国家試験においても重要項目の一つです。ただむやみに覚えるのではなく、考えることで仕組みを納得して理解し覚えていく方式で行います。そのためプリントでの確認を行っていきます。グループディスカッションや発表形式なども取り入れて行います。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ I-②	講義	2 30	1年 後期		藤沼洋匡
≪授業のねらい≫ 生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。						
≪達成目標≫ ①健康の概念を理解することができる。 ②身体の構造と機能について理解することができる。 ③こころ（心理、精神）のしくみを理解することができる。 ④終末期や死について理解し、他職種との連携、介護および家族ケアを考えることができる。						
回数	授業計画					備考
1	からだのしくみの理解 ①消化器系（口・食道・胃・小腸・大腸・肛門・肝臓・胆のう・膵臓のしくみと疾患）					
2	〃 ② 〃					小テスト （確認プリント）
3	〃 ③泌尿器系（腎・尿管・膀胱・排尿のしくみと疾患）					
4	〃 ④ 〃					小テスト （確認プリント）
5	〃 ⑤生殖器と内分泌（ホルモン）について					小テスト （確認プリント）
6	〃 ⑥循環器系（心臓・血液・リンパのしくみと疾患）					
7	〃 ⑦ 〃					小テスト （確認プリント）
8	死にゆく人に関連したしくみ ①死の理解					小テスト （確認プリント）
9	〃 ②終末期から「死」までの変化と特徴					小テスト （確認プリント）
10	〃 ③死の理解、終末期から「死」までの変化と特徴					小テスト （確認プリント）
11	〃 ④家族のケア、医療職と介護職との役割と連携					
12	〃 ⑤ 〃					
13	〃 ⑥ 〃					小テスト （確認プリント）
14	定期試験					
15	定期試験解説					
使用テキスト	介護福祉士養成講座11 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版					
評価	定期試験	確認テスト				
	80%	20%				
学生へのメッセージ	学習内容は暗記が多く、国家試験においても重要項目の一つです。ただむやみに覚えるのではなく、考えることで仕組みを納得して理解し覚えていく方式で行います。そのためプリントでの確認を行っていきます。グループディスカッションや発表形式なども取り入れて行います。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだ のしくみ	発達と老化の理解Ⅰ	講義	2	1年 前期		佐藤真基子
			30			
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を理解する学習とする。						
≪達成目標≫ ①人間の発達段階における一般的特徴を説明できる。 ②生涯発達の考え方を説明できる。 ③身体的、心理的、社会的状況が相互に影響して個人が存在していることを説明できる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明/成長・発達の考え方					
2	成長・発達の原則・法則					
3	成長・発達に影響する要因①					小テスト①
4	成長・発達に影響する要因②					小テスト②
5	発達段階と発達課題①ピアジェの認知発達理論					小テスト③
6	発達段階と発達課題②エリクソン・ハヴィーガーストの発達段階説					小テスト④
7	身体的機能の成長と発達					小テスト⑤
8	心理的機能の成長と発達					小テスト⑥
9	社会的機能の発達①					小テスト⑦
10	社会的機能の発達②					小テスト⑧
11	老年期の定義					小テスト⑨
12	老化とは					小テスト⑩
13	老年期の発達課題					レポート課題
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト	介護福祉士養成講座12 「発達と老化の理解」 中央法規出版					
評価	定期試験	レポート課題 提出	小テスト			
	60%	20%	20%			
学生への メッセージ	「発達と老化の理解Ⅰ」は、人間の成長と発達の身体的・心理的・社会的な過程、また老化とは何かを学習する科目です。 しっかりと予習・復習をし、理解を深めていきましょう。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからの しくみ	発達と老化の理解Ⅱ	講義	2	1年 後期		佐藤真基子
			30			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を理解する学習とする。						
《達成目標》 ①高齢者が持つ心身の特徴が説明できる。 ②さまざまな症状が日常生活へどのように影響するのかを説明できる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明/老化にともなう身体的な変化と生活への影響					
2	老化にともなう心理的な変化と生活への影響①					
3	老化にともなう心理的な変化と生活への影響②					小テスト①
4	老化にともなう社会的な変化と生活への影響					小テスト②
5	健康長寿に向けての健康					小テスト③
6	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①骨格系・筋系					小テスト④
7	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②骨格系・筋系					小テスト⑤
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③脳・神経系					小テスト⑥
9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④皮膚・感覚器系					小テスト⑦
10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤循環器系					小テスト⑧
11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥呼吸器系・消化器系					小テスト⑨
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑦腎泌尿器系・内分泌系					小テスト⑩
13	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑧口腔疾患・悪性新生物					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り、熱中症、脱水症、貧血					レポート課題
使用テキスト	介護福祉士養成講座12 「発達と老化の理解」 中央法規出版					
評価	定期試験	レポート提出	小テスト			
	60%	20%	20%			
学生への メッセージ	「発達と老化の理解Ⅱ」は、老化が生活に及ぼす影響について理解し、疾病とその症状に応じて生活を支援するために必要な基礎的知識を学習する科目です。しっかりと予習・復習をし、理解を深めていきましょう。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだ のしくみ	認知症の理解Ⅰ	講義	2	1 年 前期	○	鯉沼聡美
			30			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①脳の仕組みや脳の構造と症状の関係、認知症の人の心理を理解して、説明することが出来る。 ②認知症の中核症状・生活障害・BPSDの理解が出来て、説明することが出来る。 ③認知症の診断と重症度、原因疾患と治療薬についての知識を持ち、認知症予防の重要性を理解する。 ④認知症を取り巻く状況や認知症ケアの理念、認知症当事者の思いや視点を理解し説明出来る。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明 認知症とは何か。高齢者の現状と今後					
2	脳の仕組み。脳の構造・機能、認知症の病理。					
3	脳の構造と症状との関係、認知症の人の心理。					レポート作成
4	認知症の症状、診断・治療・予防。中核症状・生活障害					
5	BPSDの理解（定義・要因・誘因）					
6	BPSDの理解（主要なBPSD、BPSDの評価尺度）					
7	認知症の診断と重症度					★小テスト
8	認知症の原因疾患と症状・生活障害					
9	認知症の治療薬					
10	認知症の予防、認知症予防運動、認知症を防ぐ食生活					
11	認知症ケアの理念と視点、 認知症を取り巻く状況					★小テスト
12	認知症当事者の視点から見えるもの（DVD視聴）					レポート作成
13	前期総復習（重要事項の確認）					
14	定期試験実施					前期試験
15	定期試験の振り返り、解説・後期に向けて					解答・解説
使用テキスト	介護福祉士養成講座13 「認知症の理解」 中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト	レポート			
	60%	20%	20%			
学生への メッセージ	認知症について心から理解して、多くの認知症の人の力になれるように期待しています。					
実務経験と 科目との関連	特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。介護教員講習会取得					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだ のしくみ	認知症の理解Ⅱ	講義	2	1 年 後期	○	鯉沼聡美
			30			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①「パーソン・センタード・ケア」について、理解できて説明できる。 ②認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールを習熟できて、実際に活用できる ③具体的な認知症の人のケア方法を身に付けて、それを説明することが出来る。 ④介護者支援、介護福祉職への支援、地域支援、制度、サービス、機関について説明できる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明、パーソン・センタード・ケアについて					
2	認知症の人の理解・特性をふまえたアセスメント・ツール					★前期の復習小テスト
3	認知症の人とのコミュニケーション					
4	認知症の人へのケア（食事、排泄、入浴、清潔、睡眠）					
5	認知症の人へのケア（活動・生きがい・BPSDのケア）					
6	認知症の人へのさまざまなアプローチ					レポート作成
7	その他の各種アプローチ					
8	認知症の人の終末期医療と介護、環境づくり					★小テスト
9	介護者支援、家族への支援					
10	介護者支援、介護福祉職への支援					
11	認知症の人の地域生活支援、地域包括ケアシステム					
12	認知症の人の地域生活支援 多職種連携と協働					レポート作成
13	後期総復習（重要事項の確認）					
14	定期試験					後期試験
15	定期試験の振り返り					解答、解説
使用テキスト	介護福祉士養成講座13 「認知症の理解」 中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト	レポート			
	70%	20%	10%			
学生への メッセージ	認知症について、心から理解して、多くの認知症の人の力になれることを期待しています。					
実務経験と 科目との関連	特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。介護教員講習会取得					

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	4	1年 前期		宮崎弘美 古田由美子
			30/68			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①介護福祉士が医療的ケアを実施することになった背景を理解し、医療チームの一員としての倫理観を持ち、尊厳に配慮した行動ができる。 ②医療チームの一員として自分の役割を認識し、適切な連携の具体的方法を説明できる。 ③安全で安楽なケア実施のために必要な基礎的な知識、実施手順を身につけ、根拠に基づいたケアの実施についてわかりやすく説明することができる。						
回数	授業計画					備考
1	衛生的手洗い 授業概要の説明 医療行為・医療的ケアとは					
2	介護福祉士が、なぜ医療的ケアをするのか					
3	医療的ケアと喀痰吸引の背景 その他の制度（介護福祉士法の改正）					
4	安全な療養生活					
5	救急蘇生					
6	高齢者に多い窒息と発生時の対応					
7	清潔保持と感染予防					
8	療養環境の清潔・消毒法（消毒と滅菌）					
9	滅菌物の取り扱い（手袋の装着）					
10	健康の考え方					
11	健康状態を知る項目（バイタルサインなど）					
12	健康状態把握の演習（バイタルサインの測定など）					
13	測定した値の読み取り 急変状態について					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り レポート作成提出					
使用テキスト	介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」 中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト	リアクション ペーパーの提出			
	80%	10%	10%			
学生への メッセージ	人間の生きる力を支えるために必要な知識です。実際に医療的ケアを受ける人の気持ちについて理解を深め、安全なケアを提供するための根拠となる知識を学び、演習が行えるようにしましょう。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	単位数 時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	4	1年 後期		宮崎弘美 古田由美子
			38/68			
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより□ 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。						
≪達成目標≫ ①介護福祉士が医療的ケアを実施することになった背景を理解し、医療チームの一員としての倫理観を持ち、尊厳に配慮した行動ができる。 ②医療チームの一員として自分の役割を認識し、適切な連携の具体的方法を説明できる。 ③安全で安楽なケア実施のために必要な基礎的な知識、実施手順を身につけ、根拠に基づいたケアの実施についてわかりやすく説明することができる。						
回数	授業計画					備考
1	高齢者および障害者の喀痰吸引、呼吸のしくみ 喀痰吸引とは					
2	人工呼吸器と吸引					
3	吸引を受ける対象・家族の気持ち、説明と同意 子どもの吸引					
4	呼吸系の感染予防(吸引と関連して)喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認					
5	喀痰吸引実施手順解説 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ					
6	喀痰吸引の手順と器具・器材を使ってみる					
7	高齢者および障害者の経管栄養、消化器のしくみ 経管栄養とは					
8	経管栄養実施上の留意点 子どもの経管栄養 経管栄養に関係する感染と予防					
9	経管栄養を受ける対象・家族の気持ち、説明と同意 経管栄養によって生じる危険、事後の安全確認					
10	経管栄養の技術と留意点 経管栄養に必要なケア					
11	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持					
12	経管栄養実施手順解説 清潔の保持 報告及び記録					
13	経管栄養の手順と器具・機材を使ってみる					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
16～ 19	喀痰吸引・経過栄養をグループで実施する					
使用テキスト	介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」 中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト	リアクション ペーパーの提出			
	80%	10%	10%			
学生への メッセージ	人間の生きる力を支えるために必要な知識です。実際に医療的ケアを受ける人の気持ちについて理解を深め、安全なケアを提供するための根拠となる知識を学び、演習が行えるようにしましょう。					
実務経験と 科目との関連						

令和8年度 教科目概要(1年生)

2026年4月1日発行

吉川福祉専門学校

〒342-0041

埼玉県吉川市保1-23-14

TEL 048-984-4701

令和8年度 教科目概要
(2年生)

吉川福祉専門学校
介護福祉科



令和８年度 教科目概要をスマートフォンなどで見ることができます。
必要に応じてスマートフォン本体に保存して活用ください。

【2年生】介護福祉科 令和8年度 教育課程・目次

領域	教育内容	科 目	区 分	時間数	授業時間数		目次
					一年次	二年次	
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	講義	30	30		
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	30	30		
		人間関係とコミュニケーションⅡ	演習	30		30	1
		チームマネジメント	講義	30		30	2
	社会の理解	社会の理解Ⅰ-①	講義	30	30		
		社会の理解Ⅰ-②	講義	30	30		
		社会の理解Ⅱ	講義	30		30	3
	人間と社会に関する選択科目	他者理解と日常生活の基本	講義	30	30		
小 計			240	150	90		
介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ-①	講義	30	30		
		介護の基本Ⅰ-②	講義	30	30		
		介護の基本Ⅱ-①	講義	30	30		
		介護の基本Ⅱ-②	講義	30	30		
		介護の基本Ⅲ	講義	30		30	4
		介護の基本Ⅳ	講義	30		30	5
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	30	30		
		コミュニケーション技術Ⅱ	演習	30	30		
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	演習	60	60		
		生活支援技術Ⅱ	演習	60	60		
		生活支援技術Ⅲ	演習	60		60	6
		生活支援技術Ⅳ	演習	30		30	7
		生活支援技術Ⅴ	演習	30		30	8
		生活支援技術Ⅵ	演習	30		30	9
		生活支援技術Ⅶ	演習	30		30	10
	介護過程	介護過程Ⅰ-①	演習	30	30		
		介護過程Ⅰ-②	演習	60	60		
		介護過程Ⅱ	演習	60		60	11
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ-①	演習	30	30		
		介護総合演習Ⅰ-②	演習	30	30		
		介護総合演習Ⅱ	演習	30		30	12
		介護総合演習Ⅲ	演習	30		30	13
	介護実習	介護実習Ⅰ-①	実習	120	120		
		介護実習Ⅰ-②	実習	160	160		
		介護実習Ⅱ	実習	200		200	14
	小 計			1,290	730	560	
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ-①	講義	30	30	
こころとからだのしくみⅠ-②			講義	30	30		
こころとからだのしくみⅡ			講義	30		30	15
こころとからだのしくみⅢ			講義	30		30	16
発達と老化の理解		発達と老化の理解Ⅰ	演習	30	30		
		発達と老化の理解Ⅱ	演習	30	30		
認知症の理解		認知症の理解Ⅰ	演習	30	30		
		認知症の理解Ⅱ	演習	30	30		
障害の理解		障害の理解Ⅰ	講義	30		30	17
		障害の理解Ⅱ	講義	30		30	18
小 計			300	180	120		
医療的ケア		医療的ケアⅠ	講義	68	68		
	医療的ケアⅡ	演習	60		60	19	
	小 計			128	68	60	
卒業に必要な総授業時数（合 計）				1,958	1,128	830	
					1,958		

※授業ひとコマ(90分)は2時間換算とする

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	人間関係とコミュニケーションⅡ	演習	30	2年前期		水野守久
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①聴覚障がい・聴覚障がい者への理解と認識を深める。 ②聴覚障がい者への介護を実践のために必要なことを理解する。 ③聴覚障がい者とのコミュニケーション能力を補うための技術を取得する。						
回数	授業計画				備考	
1	授業概要説明 聴覚障害とは？ 聴覚障がい者の生活について。 第1課 名前の表し方				聞こえない事とはどのようなことなのか考える。便利なこと・不便なことを考える。	
2	第1課 自己紹介・あいさつを学ぶ				手話は色々な方法を使って表す言語。体験しよう。	
3	第2課 人称・数字の表し方を学ぶ				日常使う人称・数字を考える。	
4	第2課 時間の表し方を学ぶ				普段使う時間の表現を考える。	
5	第3・4課 趣味とスポーツ 反対語を学ぶ				興味を持つ趣味やスポーツを考える。	
6	第5課 生活用語を学ぶ				社会や生活の中での表現を考える。	
7	第6課 動作を学ぶ				生活の中の動きを考える。	
8	第6課 疑問詞・受身を学ぶ				質問形式でお互いに表してみよう。	
9	第7課 学校と職業を学ぶ				興味のある職業、将来の職業を考える。	
10	第8課 感情表現と自然現象を学ぶ				手話で大切な感情表現を考える。	
11	第9課 方位と地名を学ぶ				県の特徴を考える。	
12	今まで学んだ手話で、日常会話の発表				これまで学んだ内容の復習をしておく。	
13	今まで学んだ手話で、日常会話の発表				これまで学んだ内容の復習をしておく。	
14	定期試験				自分の思いを手話で表せるか考える。	
15	定期試験の振り返り				手話の楽しさ・難しさを考える。	
使用テキスト		入門手話講習会テキスト（自作）				
評価	手話読取試験	レポート課題提出	授業中の発表	授業参加状況		
	40%	20%	30%	10%		
学生へのメッセージ	手話は一つの言語である、その手話を覚えて簡単な会話ができるようになるろう。授業参加状況の評価については授業内で説明します。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	チームマネジメント	講義	30	2年 後期		高橋園子
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。						
≪達成目標≫ ①ヒューマンサービスの特性と求められるマネジメントが理解できる。 ②チーム運営の基本が理解できる ③人材の育成と自己研鑽が理解できる。 ④組織と運営管理が理解できる。						
回数	授業計画					備考
1	第1節 介護実践におけるチームマネジメントの意義 ヒューマンサービスとしての介護サービス					授業説明
2	第1節 介護実践におけるチームマネジメントの意義 介護現場で求められるチームマネジメント					
3	第1節 介護実践におけるチームマネジメントの意義 介護実践におけるチームマネジメントへの取り組み					
4	第1節 介護実践におけるチームマネジメントの意義 組織の目標達成のためのチームマネジメント					課題
5	第2節 ケアを展開するためのチームマネジメント ケアを展開するために必要なチームとその取り組み、マネジメント					
6	第2節 ケアを展開するためのチームマネジメント チームの力を最大化するためのマネジメント					小テスト（1）
7	第3節 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント					
8	第3節 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント					* 外部講師
9	第3節 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント					* 外部講師
10	第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント 介護サービスを支える組織の構造					
11	第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント 介護サービスを支える組織の構造・機能と役割					
12	第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント 介護サービスを支える組織の管理					小テスト（2）
13	用語の整理 これまでの学習のまとめ					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り サービス担当者会議演習					
使用テキスト	介護福祉士養成講座1 「人間の理解」 中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト	課題提出			
	70%	20%	10%			
学生への メッセージ	チームマネジメントの知識は、介護福祉士としてチームケアを行う上で役立ちます。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	社会の理解Ⅱ	講義	30	2年 前期	○	池上千恵美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。 《達成目標》 介護実践に関連する個人の権利を守る制度、保健医療に関する制度、貧困と生活困窮に関する制度、地域生活を支援する制度について理解する。						
回数	授業計画					備考
1	社会の理解Ⅱの授業説明 社会の理解1－①②の復習					
2	個人の権利を守る制度					
3	個人の権利を守る制度					課題
4	個人の権利を守る制度					小テスト
5	個人の権利を守る制度					
6	保健医療に関する制度					
7	保健医療に関する制度					
8	保健医療に関する制度					小テスト
9	貧困と生活困窮に関する制度					
10	貧困と生活困窮に関する制度					
11	貧困と生活困窮に関する制度					
12	地域生活を支援する制度					小テスト
13	地域生活を支援する制度					
14	定期試験					
15	定期試験解説					
使用テキスト	介護福祉士養成講座2 「社会の理解」 中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト	課題提出			
	70%	20%	10%			
学生へのメッセージ	日頃から新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、自分の生活に結びつけると社会の動きが理解できます。					
実務経験と科目との関連	介護福祉士としての実務経験と社会福祉士の知識を生かして、介護実践に関連する諸制度の基礎的な知識が理解できる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護の基本Ⅲ	講義	30	2年 後期		高橋園子
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。						
≪達成目標≫ ①医療保険制度、地域包括ケアシステムを理解できる。 ②医療と介護における多職種連携の必要性を理解できる。 ③高齢者に多い疾患、終末期医療を理解できる。						
回数	授業計画					備考
1	医療機関の種類と役割① なぜ医療との連携が必要なのか？～医療機関の基本～					概要説明
2	医療機関の種類と役割 ② 病院のタイプと「治療のステージ」を理解する					
3	医療機関の種類と役割 ③ 医師の専門性と「外来医療」の使い分け					課題
4	医療機関の種類と役割 ④ これからの医療・介護の姿～認知症と地域包括ケア～					
5	入院から退院までの流れ① 入院の「入り口」と病院の「仕組み」					
6	入院から退院までの流れ② 病院の「多職種」と「看護体制」を知る					
7	入院から退院までの流れ③ 退院に向けたバトンタッチと「退院支援部門」					小テスト（1）
8	地域の医療資源① 病院から地域へ～「紹介」と「連携パス」の仕組み～					
9	地域の医療資源② 診療所の役割と「かかりつけ医」との付き合い方					
10	地域の医療資源③ 在宅生活を支える専門チーム（看護・リハ・歯科・薬局）					
11	公的医療保険制度					
12	高齢者に多い疾患の理解、終末期医療					小テスト（2）
13	用語の整理					
14	定期試験					
15	定期試験振り返り 医療とのつながり演習					
使用テキスト	授業用プリントを配布予定です					
評価	定期試験	小テスト	課題提出			
	70%	20%	10%			
学生への メッセージ	医療と介護（病院と介護施設や在宅）の違いを理解することがポイントです。講義形式はただ覚えるだけではなく、グループや発表形式なども取り入れて行います。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護の基本Ⅳ	講義	30	2年後期	○	鯉沼聡美
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。						
《達成目標》 ①リハビリテーションの意義や目的、介護予防を説明できる。 ②対象者のできることを活かす視点、技術を介護実践に関連づけることができる。 ③ひとのあるべき姿を理解し対象者の尊厳を尊重した介護実践ができる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明、リハビリテーションの概念・理念とは、 介護福祉士がリハビリテーションを学ぶ意義					資料あり テキストP155～
2	リハビリテーションの体系・種類・内容 リハビリテーションにかかわる職種					〃 P184～
3	リハビリテーションの領域 チームアプローチ					〃 P186～
4	障害の理解と評価 ADL IADL QOLの概念					〃 P190～
5	リハビリテーションにおける自立支援 臥位・座位・立位・歩行					資料あり
6	身体障害のある方からの講演（日常生活と仕事等）					資料あり
7	生活リハビリテーション セルフケア援助、移動動作の援助、 コミュニケーションの援助、日常生活関連動作の援助					資料あり
8						
9	臥位から背面座位まで 背面解放座位の効果					資料あり
10	高齢者の特徴 介護予防 介護総合評価					資料あり
11	高齢者に多い疾患（パーキンソン病・脳卒中・大腿骨頸部骨折）と リハビリテーション					資料あり
12						
13	関節可動域訓練					資料あり
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト	介護福祉士養成講座3 「介護の基本Ⅰ」 中央法規出版					
評価	定期試験	レポート課題提出	小テスト	リアクション ペーパー提出		
	60%	10%	20%	10%		
学生への メッセージ	どのような状況でも対象者が「できること」「可能性」に気づき、活かす視点と想像する介護を学びます。予習復習をしましょう。					
実務経験と 科目との関連	実務経験を生かし、関係職種との連携をはかりながら対象者の「尊厳の保持」「自立支援」を実践する力の基礎となる考え方ができる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅲ	演習	60	2年前期	○	鯉沼聡美
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
≪達成目標≫ ①生活支援の理解することができる。 ②対象者の能力を活用・発揮して自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄における生活支援の基礎的な知識と技術を習得できる。 ③人生の最終段階におけるケアチームを理解し、健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解することができる。						
回数	授業計画					備考
1/2	授業説明 睡眠の介護 睡眠の意義と目的 睡眠と薬					
3/4	人生の最終段階の意義と介護の役割 / 多職種との連携★					
5/6	自立に向けた身じたくの介護 医行為ではない髭剃り、爪切り、耳の清潔介助					
7/8	自立に向けた排泄の介護 排泄の介護における多職種連携、自己導尿・座薬挿入・浣腸・ストーマ★					
9/10	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 /自立に向けた移動の介護、安楽な体位、褥瘡予防					
11/12	移動の介護における多職種との連携 /自立に向けた食事の介護					
13/14	コミュニケーション技術 演習課題 2つ					
15/16	移動の介護 演習課題 歩行介助、車いす移乗					
17/18	排泄の介護 演習課題 ポータブルトイレ排泄介助 /衣服の着脱介助 演習課題 座位の着脱介助					
19/20	衣服着脱の介護 演習課題 ベッド臥床時の着脱介助 /食事の介護 演習課題 食事の介助					
21/22	食事の介護 演習課題 食後の口腔ケア /入浴の介護 演習課題 入浴介助					
23/24	入浴の介護 演習課題 足浴介助 /実技試験に備えて、これまでの演習課題の復習					
25/26	実技試験					
27/28	定期試験					
29/30	定期試験の振り返り					
使用テキスト	介護福祉士養成講座 6・7 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規出版					
評価	筆記試験	★実技試験				
	80%	20%				
評価補足	筆記試験は60点以下再試験					
実務経験と科目との関連	特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅳ	演習	30	2年後期		飯田敬子
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
≪達成目標≫ ①家事（調理・被服・そうじ）を支援するための基本的な知識と技術を習得することができる。 ②仲間と協力し安全に調理することができる。 ③衣類の管理、手入を理解することができる。 ④そうじの意義、仕方を理解することができる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明 自立に向けた家事の介護（栄養・調理・被服・洗濯・そうじ・ごみ捨て）					調理実習には、エプロン・バンダナ・マスクを使用します
2	調理の介護。電子レンジの使用、嚥下食、食品の保存					
3	食品の保存、食中毒の予防と種類を理解する					
4	栄養素の種類と働きを理解する					
5	栄養・調理のまとめ 小テスト実施の後解説					小テストは自己採点とする
6	調理実習					各班で役割分担を事前に決めておく
7	調理実習					事前配布の調理手順を通読しておく
8	調理実習					
9	調理実習					実習後にレポート提出
10	ボタンのつけ方 なみ縫い まつり縫い					裁縫セット、ものさし、ハサミ、チャコペン 作品提出
11	洗濯の介護 洗濯マーク 衣類のたたみ方 アイロン					
12	そうじの仕方 ごみ捨て					
13	被服 洗濯 そうじ ごみ捨てのまとめ 小テスト					小テストは自己採点とする
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト	介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版					
評価	定期試験	提出物	授業参加状況			
	50%	30%	20%			
学生へのメッセージ	食えること・着ることは生活の基本です。人間として生活していることが生活支援を学ぶ事につながりますので、自分自身の生活を再確認しましょう。小テストの点数は評価しませんが、定期テストにつながりますので、しっかり理解しましょう。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅴ	演習	30	2年 前期		藤沼洋匡
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 福祉用具や福祉機器を活用する意義やその目的を理解する。介護を必要とする方の能力に応じた福祉用具の選択と活用する知識を習得し、安全に活用できる介護技術や知識を得る。						
≪達成目標≫ ①福祉用具や福祉機器を活用する意義・目的を理解し、生活の中での活用や可能性についても考えられる。 ②それぞれの障害にあった介護技術を習得するとともに、実際に福祉用具を見て、触って、体験し、安全に活用できる。 ③介護を必要とする方の、生活の中でのリハビリの重要性を理解できる。 ④超高齢者社会の到来を目の前にし、どのような心構えが必要かを考えられる。						
回数	授業計画					備考
1	オリエンテーション、生活支援における福祉用具の重要性 ～ 福祉用具とは					教室で行います
2	生活支援における福祉用具の重要性 ～ 福祉用具とは					教室で行います
3	福祉用具の種類					演習 実習棟で行います
4	適切な福祉用具を選ぶための視点 福祉用具専門員の役割					福祉用具専門員の役割、移動用リフトの演習 実習棟で行います
5	適切な福祉用具を選ぶための視点 福祉用具専門員の役割					福祉用具専門員の役割、移動用リフトの演習 実習棟で行います
6	在宅、施設における福祉用具の将来性について					レポート①
7	居住環境の整備 1 節 2 節					
8	居住環境の整備 3 節 4 節					
9	居住環境の整備 5 節					(確認プリント)
10	実習 1 自宅環境の障害					レポート②
11	実習 2 快適な室内環境・環境整備グループ討議					レポート③
12	実習 3 学校の中の危険					レポート④
13	実習 4 学校から駅までの障害					レポート⑤
14	定期試験					
15	定期試験解説					
使用テキスト	介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版					
評価	定期試験	レポート提出				
	50%	50%				
学生へのメッセージ	「見る」「触れる」「話す（ペア・グループワーク）」「やってみる（扱ってみる）」ことがご利用者・患者の方が生活しやすくなることにつながっていきます。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅵ	演習	30	2年後期		藤沼洋匡
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
≪達成目標≫ ①さまざまな障害を理解し、適切な介護技術を選択することができる。 ②さまざまな障害を持つ方が、なじみのある環境で生活していけるための介護技術を習得する。 ③状態の変化に応じ、個別性を考慮した対応ができる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術					
2	視覚・聴覚・言語障害に応じた介護					(持)油性マジック・長め定規
3	内部障害①② 心臓機能障害、呼吸機能障害					【小テスト①】
4	内部障害③④ 腎臓機能障害、膀胱直腸小腸機能障害					【小テスト②】
5	内部障害⑤⑥ 小腸機能障害、HIVによる免疫機能障					【小テスト③】
6	内部障害⑦ 肝機能障害 、まとめ					【小テスト④】
7	重症心身障害に応じた介護 、知的障害に応じた介護					課題提出日
8	発達障害に応じた介護、障害の特性、発達段階、特徴					
9	精神障害に応じた介護。統合失調症、気分障害、高次脳機能障害					【小テスト⑤】
10	【難病】筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病に応じた介護					【小テスト⑥】
11	【難病】悪性関節リウマチ、筋ジストロフィーに応じた介護					【小テスト⑦】
12	障害のある方の在宅生活					【小テスト⑧】
13	認知症への人への介護					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り 、グループワーク					
使用テキスト	介護福祉士養成講座 8 「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト				
	60%	40%				
学生へのメッセージ	疾患や障害に応じた介護を学び、現場に出た時に必要な知識を勉強します。国家試験を意識し問題も授業内で行います。					
実務経験と科目との関連	特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅶ	講義	30	2年後期		高山元樹
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
≪達成目標≫ ①レクリエーションの定義、生活支援としてのレクリエーションを理解する。 ②利用者の心身と生活の活性化、QOLの質の向上を支援することを理解する。 ③ICFの視点を元にしたレクリエーション支援を理解する。 ④レクリエーションの企画立案と実践が行える知識と技術を身に付ける。						
回数	授業計画					備考
1	オリエンテーション＋レクリエーションとは何か？ 目指すものとは					
2	利用者の身体状態の把握 → 体力や能力、様々な疾患について					
3	レクリエーション企画のプロセス → 企画の立て方とアセスメントについて					
4	実践レクリエーション① → 視線や注目を集めるために行うテクニック					
5	実践レクリエーション② → 体操など体を使って行うレクリエーション					
6	企画練習① → 小グループによる体操プログラムを組み立てる					
7	演習① → 体操プログラムの発表＋アセスメント					
8	工作レクリエーション → だるま作り①					
9	工作レクリエーション → だるま作り②					
10	実践レクリエーション③ → 物を使って遊ぶレクリエーション					
11	企画練習② → 物を使って遊ぶレクリエーションプログラムを組み立てる					
12	演習② → 物を使って遊ぶレクリエーション発表＋アセスメント					
13	認知症予防を意識したレクリエーションの考え方					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト	参考資料を毎回配布したものをテキストとする					
評価	定期試験	レポート＋企画提出	作品提出			
	50%	40%	10%			
学生へのメッセージ	介護現場で現役で働いていますが、現場で行われている事を実践的に伝えていくのでよろしくお願いいたします。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護過程Ⅱ	講義	60	2年 前期	○	池上千恵美
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 本人の望む生活に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。						
《達成目標》 1. 既習した知識・技術を統合し、多面的にアセスメントできる。 2. 利用者にとって適切な個別援助計画を立案できる。 3. 計画を実施し、実施に基づく記録と評価ができる。						
回数	授業計画					備考
1/2	授業説明 介護過程とケアマネジメント ケアプランと個別援助計画 チームアプローチにおける介護福祉士の役割					2回目 課題
3/4	介護過程とケアマネジメント アセスメント（情報収集～生活課題明確化） ICFの視点					3回目 小テスト 4回目 小テスト
5/6	介護過程の展開 事例Jさんの個別援助計画を立案する。					
7/8	介護過程の展開 事例Jさんの個別援助計画を立案する。					
9/10	介護過程の展開 事例Jさんの個別援助計画を立案する。					
11/12	介護過程の展開 事例Jさんの個別援助計画を立案する。					
13/14	介護過程の展開 事例Jさんの個別援助計画を立案する。					
15/16	事例Jさんの個別援助計画 実施の意義 実施の留意点 実施の記録 記録の留意点 評価の意義と目的 評価の留意点					
17/18	介護過程の展開 事例Jさんの個別援助計画 実施 記録 評価					18回目 小テスト
19/20	介護過程の展開 事例Aさんの個別援助計画を立案する。					
21/22	介護過程の展開 事例Aさんの個別援助計画を立案する。					
23/24	介護過程の展開 事例Aさんの個別援助計画を立案する。					
25/26	介護過程の展開 事例Aさんの個別援助計画を立案する。					
27/28	定期試験 介護過程の展開 事例Aさんの個別援助計画 実施 記録 評価					
29/30	定期試験解説 介護過程と課題解決思考 認知症の人の事例を考える。					
使用テキスト	介護福祉士養成講座9 「介護過程」 中央法規出版					
評価	定期試験	介護過程の展開	小テスト	課題提出		
	40%	40%	10%	10%		
学生への メッセージ	介護過程は課題解決思考を用いるので、自分の考えをまとめ記録する。 「介護過程の展開」の評価は授業内で説明します。					
実務経験と 科目との関連	介護福祉士としての実務経験を生かし、介護過程の意義と目的、介護過程展開の 基礎が理解できる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護総合演習Ⅱ	演習	30	2年前期	○	鯉沼聡美
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護実践に必要な知識と統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養う学習とする。						
≪達成目標≫ ①介護実習Ⅱ-②の事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成させる。 ②毎日の目標、記録類を具体的に書くことができる。 ③実習の振り返りを自分の言葉でまとめ発表することができる。 ④介護を必要とする方への様々な場面に必要とさせている介護の基本的な知識・技術を習得する。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明 介護実習Ⅰ-②の振り返り					p2～
2	介護実習Ⅰ-②の報告書作成					
3	介護実習Ⅰ-① 報告会					【発表】
4						
5						
6	介護実習Ⅰ-③意義目的 訪問介護の特徴 実習先での学び					
7	介護実習Ⅱの展開 介護実習Ⅱの意義と目的 夜間介護					(持)個人票の写真2枚
8	介護実習Ⅱの展開 実習目標設定 学生個人票の作成					※実習施設発表
9	介護実習Ⅱの展開 事前準備 実習施設概要の作成					授業内に施設個人票提出(清書)
10	介護実習Ⅰ-③ 必要な書類準備 個人票作成、訪問介護議場所作成 訪問介護実習記録方法					(持)個人票の写真2枚
11	介護実習中の学習の内容と方法 不測事態の対応					授業内に施設個人票提出(清書)
12	実習への態度、目標、観察と考察、報告 連絡 相談					※細菌検査の説明
13	介護実習Ⅱの記録 実習目標 振り返り					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り 事後指導について					
使用テキスト	介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版					
評価	定期試験	実習での学びの発表	実習書類・記録・提出物			
	40%	30%	30%			
学生へのメッセージ	各自健康管理し、自分が行く実習先の特徴など事前に調べましょう。持ち物や提出期限は守り、実習前に身だしなみの確認をします。					
実務経験と科目との関連	特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。介護教員講習会取得					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護総合演習Ⅲ（卒業研究）	演習	30	2年 後期	○	池上千恵美
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。						
≪達成目標≫ 1. 実習Ⅱの個別援助計画をまとめ論文を作成し発表できる。 2. これまでの介護実習、学内での学びから介護観を形成できる。						
回数	授業計画					備考
1	授業説明 介護実習Ⅱの振り返り 卒業研究としての介護事例研究の説明 研究の意義と目的・方法					
2	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					
3	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					
4	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					
5	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					
6	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					
7	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					
8	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					
9	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					
10	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					
11	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					
12	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					
13	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					
14	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。					課題
15	卒業研究発表会練習					
使用テキスト	介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版					
評価	研究論文	発表	課題提出			
	70%	20%	10%			
学生への メッセージ	卒業研究論文作成は計画的に取り組む。研究の喜びや楽しさを知ってほしい。					
実務経験と 科目との関連	介護福祉士資格を有する者として、実務経験の観点から指導する。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護実習Ⅱ	実習	200	2年 前期	○	鯉沼聡美 池上千恵美
≪授業のねらい≫厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で介護過程を実践する能力を養う学習とする。						
≪達成目標≫ 1. 介護過程を展開できる。 2. 個別ケアの意味を考え生活支援技術を実践できる。 3. 多職種協働・連携の重要性を理解できる。 4. 生活支援は介護過程に基づいた専門的、計画的なものであることを理解できる。						
回数	授業計画					備考
1	介護実習Ⅱは次の目標をもち、実習形式で2年生前期に25日間行う。 1. 介護過程を展開できる。 ①観察、コミュニケーション、記録類を通して介護に必要な情報が収集できる。 ②一つ一つの情報のもつ意味を理解し、情報同士の関連付けができる。 ③利用者にとっての優先度を考え、生活課題が明確にできる。 ④利用者や多職種とともに介護計画が立案できる。 ⑤利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護が実践できる。 ⑥介護目標が達成できたかの評価ができる。 ⑦具体的な支援内容が適切であったかの評価できる。 ⑧計画を修正する必要があるかの判断ができる。 2. 個別ケアの意味を考えて生活支援技術が実践できる。 3. カンファレンスを通じて多職種協働・連携の重要性を理解できる。 4. 夜間介護を体験し、24時間を通しての利用者支援の実際を理解できる。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
使用テキスト	介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版					
評価	施設指導者評価	学校指導教員評価	学生自己評価、実習記録、出席状況、カンファレンス、参加状況などにより総合評価する。			
	70%	30%				
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。					
実務経験と科目との関連	介護福祉士の実務経験を有する者として、実務経験の観点から指導する。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅡ	講義	30	2年後期		野間貴大
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 要介護者の生活支援、心理的支援を行うために、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能の理解を通して人間観を養う学習とする。						
≪達成目標≫ ①こころのからだのしくみⅢをもとに行動予測を目的とした行動のしくみや理解を説明できる。 ②心身機能の低下や障害が環境への適応を困難となる、その心理的変遷とその対処を説明できる。 ③こころとからだのしくみの知識をもとにストレスマネジメントの心理教育的関わりができる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明					
2	障害と病、症状について理解する					社会福祉学的観点でのワークを行う
3	適応障害とうつ病について理解する					DSM5の診断基準マニュアルの理解
4	統合失調症について理解する					薬物療法とコメディカル関わり
5	ストレス理論の紹介					心理学的ストレスモデルを採用
6	双極性障害を理解する					症状理解と対応の在り方
7	全般性不安障害（強迫性障害・パニック障害・社交不安）					症状理解と症状発生過程のしくみ
8	認知療法の原理					認知行動療法の理論モデルを採用
9	行動療法の原理					介護実践の場で応用を検討
10	パーソナリティ障害について理解					症状理解と対応の在り方
11	神経発達症について					概要説明
12	ASD（自閉症スペクトラム）について					事例紹介と症例検討
13	ADHD（注意欠陥多動性障害）について					事例紹介と症例検討
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト	介護福祉士養成講座11 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版					
評価	定期試験	レポート提出	小テスト			
	60%	20%	20%			
学生へのメッセージ	人間の行動予測を目的とした行動科学である心理学的視点を介護実践の場で役立つことがあると思います。人を理解する人間観を養える時間となるよう取り組んでいきましょう。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅢ	講義	30	2年後期		藤沼洋匡
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。						
≪達成目標≫ ①こころとからだのしくみⅠの知識をもとに生活に関連したしくみを説明できる。 ②心身機能の低下や障害が生活に及ぼす影響と心理的側面が説明できる。 ③こころとからだのしくみの知識をもとにケアの根拠を述べるができる。 ④こころとからだのしくみの知識をもとに観察し、多職種(医療職等)と連携することができる。						
回数	授業計画					備考
1	身じたくに関連したしくみ①					
2	身じたくに関連したしくみ②					
3	移動に関連したしくみ①					
4	移動に関連したしくみ②					
5	移動に関連したしくみ③					
6	食事に関連したしくみ①					
7	食事に関連したしくみ②					
8	食事に関連したしくみ③					
9	入浴・清潔保持に関連したしくみ①					
10	入浴・清潔保持に関連したしくみ②					
11	排泄つに関連したしくみ①					
12	排泄つに関連したしくみ②					
13	睡眠に関連したしくみ					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り レポート課題 記入提出					
使用テキスト	介護福祉士養成講座11 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト	リアクション ペーパー			
	80%	10%	10%			
学生への メッセージ	自己のからだをイメージしながら、生活する利用者のからだの機能を理解する。 他の科目と関連することが多いので、配布資料で振り返りをしましょう。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだのしくみ	障害の理解 I	講義	30	2 年 前期		船澤修一
≪授業のねらい≫ 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。						
≪達成目標≫ ①意思決定権、自立、自己実現、ノーマライゼーション、インクルージョン、権利擁護について説明できる。 ② I C F から、ライフステージや障害の特性に応じたQOLを高める支援につなげることができる。 ③医学的・心理的側面から心身や心理的な変化を理解し、本人・家族の支援ができる。 ④障害の特性に応じた障害福祉制度を理解し支援に活用できる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明					
2	障害者福祉の理念 I C F と支援の方向性					
3	障害及び障害者の定義					
4	障害者支援 福祉制度の発展					
5	障害者の権利擁護 自己決定権の保障、アドボカシと法制度					
6	障害者福祉サービス 地域生活支援					
7	障害者福祉サービス 施設福祉					
8	障害者福祉サービス 早期療育 インクルーシブ教育					
9	障害者福祉サービス 学齢児への支援					V T R 予定
10	障害者の雇用					
11	外国の障害者福祉					小テスト
12	障害者の家族への支援					
13	障害がある人の心理 知的障害 原因・特性理解と支援					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト	介護福祉士養成講座14 「障害の理解」 中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト	授業参加状況			
	70%	20%	10%			
学生へのメッセージ	障害種別による特性を理解し、すべての障害において本人参加、自己実現の支援が重要であることを学びましょう。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだのしくみ	障害の理解Ⅱ	講義	30	2年後期		船澤修一
<授業のねらい> 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。						
<達成目標> ①意思決定権、自立、自己実現、ノーマライゼーション、インクルージョン、権利擁護について説明できる。 ② I C F から、ライフステージや障害の特性に応じたQOLを高める支援につなげることができる。 ③医学的・心理的側面から心身や心理的な変化を理解し、本人・家族の支援ができる。 ④障害の特性に応じた障害福祉制度を理解し支援に活用できる。						
回数	授業計画					備考
1	身体障害 肢体不自由 原因・特性理解と支援					
2	身体障害 視覚障害 原因・特性理解と支援					
3	身体障害 聴覚・言語障害 原因・特性理解と支援					
4	重複障害 特性理解と支援					
5	発達障害 原因・特性理解と支援					
6	高次脳機能障害 原因・特性理解と支援					
7	強度行動障害 原因と支援					
8	精神障害 原因・特性理解と支援					
9	難病 原因・特性理解と支援					小テスト
10	職種理解とチームアプローチ					
11	機関理解とネットワーキング					
12	事例検討 ①特性に応じた支援 ②制度の利用					
13	かかわり支援の実際					V T R 予定
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト	介護福祉士養成講座14 「障害の理解」 中央法規出版					
評価	定期試験	小テスト	授業参加状況			
	70%	20%	10%			
学生へのメッセージ	障害種別による特性を理解し、すべての障害において本人参加、自己実現の支援が重要であることを学びましょう。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
医療的ケア	医療的ケアⅡ	演習	60	2年前期		宮崎弘美 古田由美子
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①医療的ケアを安全・的確に実施するための技術の実践できる。 ②1つ1つの行為、手順の根拠を述べることができる。 ③対象のプライバシーに配慮した行動ができる。 ④対象の尊厳や人権に配慮した行動ができる。						
回数	授業計画					備考
1/2	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習					
3/4	〃					
5/6	〃					
7/8	〃					
9/10	〃					
11/12	〃					
13/14	〃					
15/16	〃					
17/18	〃					
19/20	〃					
21/22	〃					
23/24	〃					
25/26	〃					
27/28	〃					
29/30	救急蘇生演習（救急隊による）					
使用テキスト	介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」 中央法規出版					
評価	演習評価表	レポート提出	参加状況	・身だしなみが整っている。 ・積極的に参加している。 ・私語をしていない。 ・自分以外の人の支援をする。		
	60%	10%(最終日)	30%			
学生へのメッセージ	人間の生きる力を支えるために必要な知識です。実際に医療的ケアを受ける人の気持ちについて理解を深め、安全なケアを提供するための根拠となる知識を学び、演習が行えるようにしましょう。					
実務経験と科目との関連						

令和8年度 教科目概要(2年生)

2026年4月1日発行

吉川福祉専門学校

〒342-0041

埼玉県吉川市保1-23-14

TEL 048-984-4701